

麻生すこやか通信

VOL. 36

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌 2019年7月



2019 evolution & development

麻生脳神経外科病院の 進化・発展

院長 飛驒 一利

今年の前半は、個人的には鹿児島での講演会、大阪での研究会、東京での講演、脊髄ジャーナルの編集会議、大阪での学会、京都での研究会、札幌での学会、さらに今週も北関東での講演会とほぼ毎月あわただしい学会活動をしています。9月には北京で行われる世界脳神経外科学会総会(WFNS)がありますが、脊髄腫瘍の外科治療の講演を依頼されているので、紫禁城、万里の長城を今から楽しみにしています。

昨年も執刀医として250件ほどの手術をこなしていますが、鹿児島、静岡、東京と道外から手術を受けにきていただいています。外来での新患のほとんどが医師あるいは手術を受けてよかった患者さまからの紹介ですが、より低侵襲な治療で笑顔で帰って頂くよう、スタッフ一同、努力しております。

さて、これからの時代はAIと言われており、医療の世界も例外ではありません。形態学的な診断に頼る病理診断、さらにMRI、CTなどの画像診断も迅速さという点では、AIによる自動診断がもうすぐ実用レベルになるかもしれません。さらに血液検査、遺伝子診断にて、現在の人間ドックで

は診断不可能な疾患、そして将来的な成人病、癌の予測なども近未来の医療として、注目を集めています。しかし、いずれもまだ人間の最終診断が必要な補足的なものと思われます。

救急患者さまの中で脳塞栓に対する治療は今や大きく変わっています。血栓溶解療法のみに頼る時代はとうに過ぎて、超急性期での血管内手術による血栓回収術が、患者さまの術後成績を大きく改善する可能性が高いことが既にわかっています。当院でも専門医による血栓回収術が増えており、今年の夏には血管撮影装置(DSA)も最新の機種を導入する予定です。さらにリハビリテーションにも力を入れており、今までの3階のリハビリスペースの他に、5階にもリハビリスペースを広く取り、脳卒中あるいは脳・脊椎脊髄疾患の術後の患者さまにも十分なリハビリを提供できるように、もうすぐ改築を行う予定です。今月から救急車への対応も医師が直接対応することで、より迅速に救急患者さまへの対応が可能なように変わりました。2019年も少しずつ進化・発展する札幌麻生脳神経外科病院を、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



当院での救急診療体制を 『Sapporo Stroke Meeting』 でお話しました

6月24日に京王プラザホテル札幌にて開催された『Sapporo Stroke Meeting』に於いて、当院の安田宏医師、小林聡医師が講演を行い、当院での救急診療体制の取り組みをお話しました。

講演 1

「当院の救急患者の現状について」

当院統括診療部長 安田 宏 医師



2018年の救急診療の総受診件数は1,648件であり、うち救急車での搬送件数は1,063件と総受診件数の約65%でした。2017年の救急車搬送件数は943件であったため、前年より多く

救急車での搬送を受け入れております。また、受入状況は近隣地域の救急隊からの要請だけではなく、遠方の地域の救急隊からの受入要請や、他の病院の医師からの受入要請に対応することもございます。救急診療による診断結果は、脳卒中が約27%、外傷打撲が約29%、てんかん・けいれんが約5%、その他が約39%であり、その他の患者の中には、脳神経に関する症状が現れていても、検査を行うと脳神経疾患ではない予後に重大な影響を与えるような疾患であった場合もありました。今後も患者さまにご満足頂けるよう、救急診療体制をより良い体制に整え、地域の医療を担う存在でありたいと考えております。

講演 2

「慢性期脳塞栓症治療につなげる 超急性期血栓回収療法の取り組み」

当院 小林 聡 医師



当院での超急性期脳梗塞の血栓回収療法は、適用数が20例あり、そのうち19例について血管内治療を行い、18例で血栓回収術を施行し、その全てで実施後に半分以上の再開通をしております。『Time is brain』

と言われるように脳梗塞治療は一刻を争うものです。治療が1分早いと健康に過ごせる時間が1.8日も伸びます。そのため血栓回収術は、病院に搬送されてから再開通をするまで90分以内で行う事を目標にしており、当院でも目標時間内に血栓回収術を行えるよう努めております。また、血管内治療は2016年には全国で約7,000件の治療件数が実施されており、2018年は約12,000件と治療件数は増加しております。近年の傾向からも血栓回収療法の適応患者の増加が予想されることから、これからも迅速な対応ができるように取り組んでいきたいと考えております。

「当院の救急診療体制の総括として」 当院 飛驒 一利 院長



これまでの安田医師、小林医師の講演で当院の救急診療患者の症状別内訳、超急性期の患者さまへの診療状況、近隣地域との連携の在り方等、当院での救急診療体制の取り組みについて、深くご理解頂けたことと思います。特に、脳卒中への対応はスピードが勝負で、いかに初動から迅速に対応できるかが大切であり、患者の身体的負担や後遺症の発症を少なくすることができます。当院では、救急医療に対する知識や経験も多い医師やスタッフを配置して体制を整えております。今後も救急隊の方々等からのご提言を頂きながら、当院の救急医療体制をより向上させるよう努めていく所存でございます。

当院では、脳神経外科の専門病院として24時間365日受け入れを行っております。
 もしもの時に頼れる病院として、どうぞご活用下さい。

入 退 院 支 援 セ ン タ ー

今年4月より入退院支援の充実を目指し、これまでの地域医療連携室と入退院支援室が1つの部署となり『入退院支援センター』として開設されました。統括診療部長の安田医師をセンター長に、入退院支援センター担当看護科長に小日向看護科長、専従看護師2名、ソーシャルワーカー1名、事務職員1名で運営開始しております。

今までの関係機関との前方連携及び受診・入院調整に加え、「新たに入退院支援として外来通院中の患者さまの予約入院時のオリエンテーション」、「担当看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーの入院前カンファレンス」、「入院当日の患者さまの病棟オリエンテーションや病棟看護師への引き継ぎ」などを行っております。

入院前カンファレンスの結果で、必要に応じ薬剤師が安全に手術や検査が実施できるように薬の確認を行ったり、栄養士が入院中の必要栄養量や食事内容をあらかじめ準備したり、退院後に社会資源等必要があればソーシャルワーカーが相談支援で関わらせて頂き、以前よりチームで支



援させて頂く体制の強化を致しました。実際入院される患者さまやご家族からは「事前に入院生活のイメージがついたので、安心して入院することができた」、「手術への不安が少なくなった」などの声が訊かれております。

センター新設を機に、チーム一丸となって患者さまの気持ちに寄り添い、安全で安楽な入院生活と退院後の生活を目指し努力していく所存でございますので、どうぞよろしくお願い致します。



多職種カンファレンス

PICK UP!



入退院支援センター看護科長
小日向 美紀

入退院支援センター看護科長の小日向と申します。地域連携の窓口として患者さまのかかりつけ医である病院やクリニックからの受診・入院相談だけではなく、紹介を受けた患者さま・ご家族さまからのご相談にも広く対応させて頂いております。また、臨時入院された患者さまの翌日行われる多職種カンファレンスにも参加し、入退院支援センターの看護師達と共に入院患者さまへの退院支援にも関わらせて頂いております。今後、地域包括ケアシステムの重要性がますます高まる中、近隣の病院や患者さまとの連携を深め、皆様が安心して当院の医療・ケアを受けて頂けるよう入退院支援センターは地域のステーションとして活動していきますので、どうぞよろしくお願い致します。

麻生脳外科テラス教室 開催報告

昨年10月より当院1階
テラスにて行っています！

1月29日 第2回テラス教室

健康寿命を延ばそう

～知っておきたい脳と健康～

当院リハビリテーション科の安彦かがり医師が“脳と運動”についての講演を行い、理学療法士が“無理をしない室内運動”で筋力アップさせる方法を実践。参加された方と一緒に身体を動かし、「これなら毎日続けられる」との声もあり、参加者の健康寿命への関心の高さを感じた講演となりました。



5月31日 第3回テラス教室

気になる腰痛のはなし

～私の骨は大丈夫？～

当院の笹森徹医師より“腰痛と骨のお話”の講演をし、その後外来担当の看護師より“骨粗しょう症を予防する生活習慣”の講演を行いました。また講演終了後には参加された全ての方の骨密度の測定を行い、多くの参加者にご好評頂きました。



テラス教室は今後も継続して開催する予定でありますので、どうぞお気軽にご参加ください。

編集後記

脳神経に関する疾患は、ある日突然症状として現れることも多くあります。定期的に検査を行って頂く事をおすすめ致しますが、初めての病院を受診するという事に不安や抵抗がある方も多いと思います。当院では患者さまに落ち着いて過ごして頂けるような空間づくりを行っておりますので、ぜひお気軽にお立ち寄り下さい。病院という場所のイメージが良いものになるかもしれません。患者さまの笑顔が私たちの宝物です。

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東1丁目1-40
TEL 011-731-2321(代表) FAX 011-731-0559
ホームページ <http://www.azabunougeka.or.jp>

交通アクセス

- 地下鉄：南北線 北24条駅下車
(2番・3番出口から徒歩約7分)
- 中央バス：「北21東1」下車、徒歩約2分
- 中央バス：「北24東1」下車、徒歩約2分



携帯用サイト



当院への バス路線 中央バス

屯田線 02・新琴似線 09・あいの里・篠路線 22
篠路駅前団地線 36・ひまわり団地線 28
花川南団地線 14・花畔団地線 16・元町線 東70
石狩線・石狩線(トーマン団地行)・札厚線・札厚線(特急)

※お間違いのないようご注意ください

- 往路と復路とで停留所の異なる路線があります。
新琴似線 09・花川南団地線 14・花畔団地線 16・石狩線・石狩線(トーマン団地行)
- バス停「北24条東1丁目」は旧石狩街道・石狩街道・宮の森北24条通の3カ所あります。